

## 環境保全のボランティア体験講座 2024 第 8 回講座レポート

第 8 回講座となる修了式を 11 月 24 日（日）環境事業協会の本社会議室で開催しました。この日の受講生の参加者は 14 名で、以下の流れで進行しました。

左下の写真は、当協会松本理事長からの労いの言葉のあと、受講生一人ひとりに直接修了証書をお渡ししていく様子です。



会場には、講座でお世話になった各活動地の方々もお招きしました（右写真）。

歌垣 SATOYAMA 楽舎 湯浅淳子代表(左端)  
和泉葛城山ブナ愛樹クラブ 高原喬二氏(左から 2 人目)

淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク 河合典彦事務局長(左から 3 人目)

そして左から 4 人目は昨年度の講座の修了生「まっちゃん」こと矢野隆文さんです。現在も活発に活動をされておられ、その様子を受講生にお伝えすべくお招きしました。

修了式のスケジュール	
13:30～	開会
13:32～	理事長挨拶
13:35～	修了証授与
13:50～	写真等を見ながらふり返し
14:30～	休憩
14:40～	活動地 No.1 総選挙 他感想共有
	活動地の紹介など
15:25～	講座を受けての先輩の反応
15:35～	今後の協会の事業紹介
15:40～	懇親会（ティータイム）
16:25～	アンケート記入
16:30	終了・解散



PowerPoint を利用して、各講座で撮影した写真を多数使った振り返りを行いました。6月からの活動の記憶が思い起こされます。



休憩を挟んだ後、**活動地 No.1 総選挙**と題したアクティビティの開始です！

これは今年度初めての試みで、運営側も大変関心が高いものでした。

各活動地に参加してみた結果、お気に入りとなった活動地とその理由を修了式に参加の14名に付箋に記入してもらい、1人2票制で投票して貰いました。

結果は以下のようになりました☆彡



**1位** 10票／16名 第2回活動地 歌垣 SATOYAMA 楽舎 (+地黄湿地)

**2位** 6票／9名 第7回活動地 富田林奥の谷

**3位** 5票／14名 第3回活動地 京エコロジーセンター (+さすてな京都)

元々各講座の参加者数は16～9名と開きがありました。特に9名欠席したことにより9名だけの参加だった富田林奥の谷は不利かと思われましたが、結果2位となっており、驚きの結果でした。竹の管理から利用までを順に学べたことで、高い評価結果となったようです。

それぞれの活動地を選んだ理由を少しだけご紹介します。

■第2回活動地 歌垣 SATOYAMA 楽舎 (+地黄湿地)

・地黄湿地の中で様々な生物を見れたり、カレーや鹿肉などがおいしく、貴重な体験をたくさんさせてもらったから。また、里山の産業や現在の問題について詳しく知れたから。

■第3回活動地 京エコロジーセンター (+さすがな京都)

・最初は施設見学にはあまり乗り気しなかったが、実際に行ってみると面白かった。特に、午後からのごみ処理場見学が良かった。一般的な教典としてごみ処理の実際を学ぶことができた。担当の人のごみ処理の講義や展示内容が興味深い内容で啓発された。

■第4回活動地 和泉葛城山ブナ林

・以前高校の課外活動で来たことがあったものの、観察と声紋調査しかできていなかったため、具体的にどのエリアでどのようなもの、方法を用いて保全活動を行っているか知ることが出来たため。あと地元だから。

■第5回活動地 能勢三草山

・稲かりや台場クヌギなど色んな体験ができて経験として満足度が高かったから。また、里山の保全について詳しく知れて自分にとってとてもいい経験になった。

■第6回活動地 淀川城北ワンド

・普段から慣れ親しんでいるので、やっぱりここが一番。

■第7回活動地 富田林奥の谷

・放置竹林の説明→竹の伐採活動→竹炭見学・活動→竹細工作りといったように、現状の説明から、保全活動、利用までを流れで体験できたのが良かった。

皆さんはそれぞれ活動地を2箇所選んで投票したということで、それでは皆で一緒に活動に参加できる日はないか！？という流れで、投票した人には活動地ごとに前に出て来てもらい、活動地の方と共に今後の参加について話し合いました。以下の写真はその時の様子です。





地元だからまた行ってみたいなどの声もあり、少数の獲得票だった活動地でもかなり期待の膨らむ会話が続きしました。また、活動地によっては、たくさんの方が行きたいと手を挙げると、票を入れていなかった人まで手を挙げたりするなどの盛り上がりを見せました。

その後、前年度までに開催した、自然環境を保全するボランティア団体の活動地を巡る講座「学生ボランティア養成講座」や「大自然とお友達体験講座」の修了生が、個人的に活動に参加している、又は講座で得た体験や知識を応用して活動している様子なども、PowerPointのスライドなどで複数名ご紹介しました。

下の写真は昨年度の「大自然とお友達体験講座 2023」の修了生、矢野さんによる活動の紹介の様子です。ネットに接続し、マメに更新されている Facebook の内容を受講生にお見しながらご説明されました。



さて、ここからは活動地の方々とティータイムで個別交流の時間を設けた時の様子です。様々なお菓子をを用意しましたが、机上の白紙はお皿代わりの紙です。



以下の写真は、イタセンパラ保全市民ネットワークの河合事務局長が淀川の河川敷で採れたオニグルミをご持参くださり、皆で割って試食している様子です。割ってから中身を爪楊枝で掻き出して食べていましたが、意外に器用に突かないと出てこなく、夢中で突いて食べていました。くるみ割り人形の話も出たりして、盛り上がりました。



河合事務局長は淀川鶴殿のヨシを持参頂き、切り取ったペットボトルで安全に作業できるヨシ笛作りを披露、受講生は体験していました。  
完成したヨシ笛の大きな音に受講生は驚きの様子でした。



お菓子を食べながら、笛を吹きながら、談笑をしながらの楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。終了の時間を迎えたために一旦は中締めをしましたが、1時間経ってもまだ談笑が続き、過去一の盛り上がりを見せた修了式となりました。



講座終了後に行ったアンケートでは、たくさんの記述文で回答が寄せられましたが、以下に一部の例を紹介いたします。

Q1.この講座に応募いただけた理由をお聞かせください。

A1.自然の保全活動のボランティアをするのは今回が初めてでどんな活動があるのか知りたかったのと、これをきっかけにボランティアをしたり、自分の地元でも活動してみたいと思ったからです。

A1.環境保全のボランティア活動に興味があったが、具体的な活動内容は知らず、当時知識のない中で、活動に参加することに抵抗があった中、教授からの紹介があったため。

Q2.この講座に参加した感想をお聞かせください。

A2. 自分ひとりじゃなかなか踏み込めないような、特別な体験をさせていただきました！友達も新しく増え、充実した日々を過ごせたように思います。ここで得た絆を大切にしていって、より発展した日々を過ごしたいと思いました。

A2. どの回も内容が濃く、とても勉強になりました！（翌年、有料で補習参加ができたならなあ）講座で終了ではなく”これから”も人や団体とつながっていける大事な機会だと思った。大阪府近辺の業界は狭いと思うのでまた会うことは絶対あると楽しみです。

A2. いろんな保全活動に参加できて、どの活動もすごく刺激的で興味深かった。活動だけ、説明だけでなく、どちらも含まれていたのも、より理解が深まって良かった。受講者の年齢層が幅広く、いろんな人と交流できたのが楽しかった。

A2. なかなか参加できなかった事も多かったのですが、半年かけて同じメンバーで様々な活動場所へ行けたのがとても良かったです。今後も今講座で参加させて頂いた場所へも積極的に参加したいです！

A2.保全活動を知り、参加するだけでなく、活動を維持するための方法や問題について学ぶことができるとも良い経験になった。活動で得たつながりを基に、これからのボランティア活動、学校内での活動に活かそうと思う。

以上のように、楽しく有意義に受講され、更に次につながるような内容のものが複数見られました。これからの自然環境保全の世界が楽しみとなる、期待の膨らむ回答でした。

さて、受講生の皆さん、半年間お疲れ様でした。大好評だったようで、また無事終了できて良かったです。事務局としましては、講座が終わってからも、参加者の今後や各活動地の今後に繋がるような講座やイベントのご案内を、積極的に続けていっております。ぜひ自分にあった活動を見つけて、次につなげていって頂ければと思います。

また、学生ボランティア養成講座第1期生から4年目となる、自然環境保全のボランティア活動地を巡る当シリーズ講座は、毎年ブラッシュアップしております。今年度も修了式で「活動地 No.1 総選挙」という新企画がありましたが、そのアクティビティがきっかけで講座修了後の活動地への参加もかなり複数の日で受講生から具体的に手が挙がり、例年以上のいい感触を得られました。残念ながら上位に選ばれなかった団体さんにも、どこよりも魅力ある活動地を目指して今後頑張ってもらいたいのと、今後の講座の内容も活動地の方々と検討して、共に良いものを作り上げて結果を出していきたいと考えております。来年度も、より良い講座を目指して組み立てていきますので、これをご覧の皆さま、ぜひとも応援の程、よろしくお願ひ申し上げます。